



木もれびの森の樹木

アカメガシワ（トウダイグサ科アカメガシワ属）

森を見上げると、高い木が葉を茂らせて空を覆っています。そんな中、ぽっかりと穴が開いているところ（ギャップ）があります。老木が強風で倒れたりして、ジグソーパズルの一コマが外れたように、空を見上げることができます。このギャップの下に、光が差し込むようになります。そこに新しい、大きな葉を持った陽樹（多量の光を求める樹種）が現れます。

アカメガシワもそんな陽樹のひとつです。その種子は何年間も何十年間も土の中に埋もれて、じっとこの日の来るのを待っていました。ギャップができ、差し込む光を感知したのです。アカメガシワの春先に出る新葉は赤い産毛をまとって、強い紫外線から守る工夫をしています。



森のギャップ



春先に赤い新葉



林縁のアカメガシワ



毛の多い実

葉の並び方を上からみるとお互いが重ならないように上手に展開して光を効率的に浴びる工夫もしています。と言っても、ギャップはなかなか現れません。そこでアカメガシワは森の周囲の日あたりの良いところ（林縁）を選びます。一方、この林縁があるおかげで森の中は野鳥などに快適な環境が保たれています。夏（今頃ですね）、毛むくじらの実をたくさんつけます。秋になると実が割れて3~4個の黒い種子が現れます。それを野鳥が運び、土に埋もれてまた陽の当たる時が来るまでじっと待つのです。うーん、アカメガシワの生きざまは奥が深いです。（鳥飼）

木もれびの森の草花

ヤマユリ (ユリ科)

私は幼少期を田舎で育ったので、夏になると近くの山地や丘陵のあちこちで、草木の緑の中に白く大きなユリの花が咲いているのを見ることが出来ました。また、今では憚（はばか）られることですが、この球根を掘って焼いて食べた思い出があります。

ヤマユリは世界に誇れる日本のユリの代表的な品種で、東北地方から近畿地方にかけて分布します。草丈は 1～1.5m、葉は互生で長さ 10～15 cm の披針形で短い柄があり、花は白色で、6 枚の花びら（花被片）に別れ、各々に黄色の帯と赤褐色の斑点が入ります。直径が 20 cm 程になり、1～



八王子長池公園の近くで

数個が横向きに咲き、強い芳香があります。

球根は多肉の鱗片茎で、食用としても生産されています。また、漢方では滋養強壮・利尿薬として利用されています。

なお、このヤマユリは神奈川県の花として、昭和 26 年 1 月に全国に先駆けて制定され、広く親しまれています。（本田）



木もれびの森で

木もれびの森の森の虫たち (15)

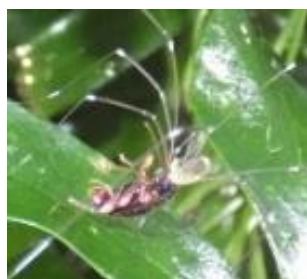
梅雨の時期は虫たちも雨を嫌うため葉の裏とか何処かに潜り込んでじっとしていると思いますが、暖かくなって活動も活発になっています。そんな中、6～7月の雨のない束の間の晴れの日に観察できた虫たちを紹介します。（海野）



トゲ状の毛がある
ササグモ



オトシブミとザトウ
ムシのにらみ合い！



ザトウムシの餌食
に・・・



セアカツノカメムシ



ギンメッキゴミグモ



オオナミモンマダラ
ハマキ



ルリタテハの幼虫



そっと忍び寄る昆虫暗
殺者シオヤアブ